

大好き！富田林

3月議会報告



日本共産党です

富田林民報

発行 日本共産党富田林市会議員団 富田林市常盤町1-1 TEL 25-1000 (内線240) FAX 20-6627 URL http://www.jcp-tondabayashi.org/

消費税増税中止、 憲法9条を守る共同を

暮らし・福祉を最優先する政治へ

日本共産党は消費税増税を中止させ、大企業優先の政治から、国民の暮らし福祉を最優先する政治への転換を呼びかけています。

また、安倍首相による「戦争をする国づくり」を許さず、憲法9条を守るための共同を呼びかけています。

安倍政権は、学校や病院、公営住宅をはじめ公共施設の統廃合・縮小、上下水道民営化などの政策をすすめています。

大阪では、「維新」の府政になって廃止・縮小された事業は、在宅高齢者入浴補助事業、小児救急医療事業運営費、商店街で実施するイベントへの補助など 30 事業もあり、府から富田林市への補助金は年間約 1 億 1 千万円減額です。

「住民の福祉の増進」を使命とする地方自治体は、住民の意思を尊重して暮らしを守る防波堤の役割を果たすべきです。(代表質問前文より)

給与所得者の収入 段階別調べ(富田林市)

全体の一人あたりの収入

2001年度.....540万7千円
2018年度.....453万2千円

87万5千円も減収!!

年間収入が300万円以下の人

2001年度.....25.7%
2018年度.....37.3%

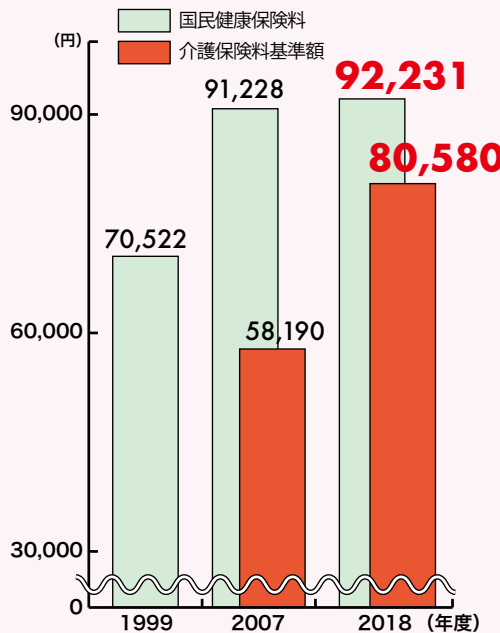
収入が2,000万円超の人

平均収入

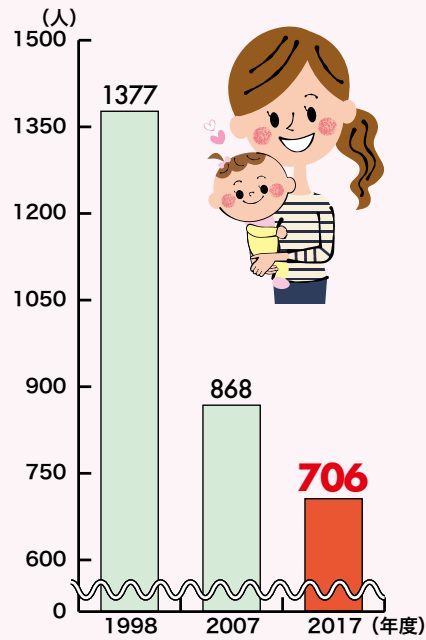
2001年度.....2,832万9千円
2018年度.....3,266万4千円

433万5千円も増収!!

国民健康保険料・介護保険料基準額 (1人当たりの年額)



年間の出生数



市は、給与所得者の「平均収入の減少傾向や、収入金額300万円以下の人が増加傾向にあることに加え、高齢者における介護保険基準保険料の一人当たりの負担が増えていることが確認でき、市民生活は依然として厳しい状況にある」との認識を示しました。

2019年度予算で充実する事業

- 寺池台学童、向陽台学童クラブのクラス分割 高辺台学童のクラス分割に向け施設整備
- 待機児童解消に向け、4月に民間保育園の開園
- 小学校就学援助の入学準備金を4万600円から5万600円に増額。同様に中学校就学援助も4万7400円から5万7400円に増額
- 小学校普通教室へ空調設備整備事業
- 富田林病院の建替事業開始
- 彼方・高辺台・喜志西・藤沢台小学校、喜志・明治池中学校の体育館の照明器具やバスケットゴールなど非構造部材の耐震化
- 東条・高辺台小学校、明治池中学校のトイレ改修
- 近鉄と共に川西駅の整備でエレベーター設置

富田林市

空家等の適正管理に関する条例を制定

国の「空家対策特別措置法」を受けて、市が倒壊など危険な空家に対して「緊急安全措置」をとることや、空家の状態を認定する「協議会」を設置するための条例が制定されました。

建設厚生常任委員会
予算決算常任委員会
南河内環境事業組合議会運営委員長

総務文教常任委員会副委員長
予算決算常任委員会
議会運営委員会
南河内環境事業組合議会議員
富田林市都市計画審議会

建設厚生常任委員会
予算決算常任委員会
富田林病院特別委員会
広報委員会副委員長
富田林市環境保全審議会



3月議会での日本共産党議員団の代表質問と市の答弁要旨を報告します。

力を合わせて、いのちと暮らしを守る市政を

思い切った子育て支援の充実を!

本市の出生数は 1998 年度 1377 人だったのに、2017 年度は 706 人です。「市総合ビジョン」では、「子育て・定住の場として本市の魅力を高めていく」、「結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実を図る」としています。



しかし、7つの幼稚園を廃止する計画があります。市立幼稚園での3年保育や延長保育の実施など、「総合ビジョン」が示した方向を、具体化することが大切です。

地域の活性化策を!

国は、人口減少にともない幼稚園や小学校を含め公共施設の統廃合を求めています。地域の幼稚園や小学校がなくなれば、ますます人口が減少します。



本市内の商店数も、2004年に949店舗で営業されていたのに、2016年には482店舗に減っています。

行政としては地域に必要な公共施設や、公共交通を維持確保すること、交通弱者の移動を支援するためにバスやタクシー代を補助するなどの施策展開が必要です。

地域の安全・安心確保のための対策を!

昨年秋、私たちが行った市民アンケートで、「避難情報で、どのタイミングで避難したらいいのか」、「避難所が遠い」、「防災無線が聞こえない」などの声が寄せられています。



ポケベルの電波を利用した「防災ラジオ」が話題ですが、災害が予想される地域に導入を検討することや、「がけ地防災工事補助事業」の対象を拡大すること、また、富田林病院での救急医療体制充実も必要です。

生活の困難が拡大していることへの対応強化を!

政府は、「戦後最長の好景気」だと宣伝していますが、富田林市民の2015年度の給与所得者の平均は年間455万7千円でしたが、2017年度は452万1千円に減っています。



「富田林市子どもの生活に関する実態調査」で、「子ども医療費助成制度の拡充や国民健康保険料および利用者負担の減免などの拡充」、「子育て世帯への家賃負担の軽減」などが必要とされています。

市政への市民の参加・参画の保障を!

市の施策展開にあたっては、説明責任を果たすとともに、市民、関係団体などの意見を聞き「住民合意」を基本とすることです。



市が設置している委員会や審議会が、「委員会・審議会を担当している部局の意見を押し付ける場になっていないか」など絶えず検証が必要です。

市民や団体との対話を旺盛に進めるとともに、地域での「行政懇談会」などの開催も必要です。

総合ビジョンと他の計画との整合性確保を!

市の「総合ビジョン」は、市民がずっと住み続けたいと思える富田林市にするための計画です。

「第3期行財政改革プラン」で、保育所の一部民営化、公共施設等総合管理計画の推進、施設使用料の見直し、公民館講座の一部有料化、粗大ごみ収集の有料化、下水道料金の見直しなどがあり、制度の後退は許せません。

長年の市民の皆さんの声や、運動で築き上げられてきた各種の施策が後退することのないようにすることが大切です。

8期32年の
ご支援に感謝

奥田議員が
議場で引退挨拶

8期32年間、多くの方々に支えていただき本当にありがとうございました。
ご指導、ご協力いただいた議員の皆さん、市長をはじめ理事者や、職員の皆さんにもお世話になり、ありがとうございました。
選挙を控えられている議員の皆さんには、目標を達成されるようご祈念申し上げます。私も、川崎よしきさんにバトンを渡せるように力を尽くします。以上で、議員生活最後の質問を終わります。ありがとうございました。

国保料・介護保険料の引き下げ請願書に公明・自民・維新が反対

社保協から、国保料と介護保険料の引き下げや、サービスの充実などを求める請願書が提出され、日本共産党議員団は賛成の討論をしましたが、採決の結果「不採択」になりました。

